

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3874000353
法人名	社会福祉法人御荘福祉施設協会
事業所名	グループホームみしょうの里
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城5272番地
自己評価作成日	平成21年7月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年7月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

古い民家を改装して造られている為、利用者は馴染みのあるどこか懐かしい場所と感じて生活されています。そんな暮らしは、安心感を与え表情にゆとりが生まれます。裏の畑での野菜作りや庭での花植え、買い物や洗濯物たたみ、テレビを見たり散歩をしたり、どこのご家庭でも当たり前前に送っている日常を過ごしていただいています。町の中心地にあり、地域の方々との交流が徐々にですが、増えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の重度化に伴い、食事の準備等を一緒に行うことがむづかしくなっている状態であるが、テーブル拭き等、できることを行えるよう支援されている。利用者の機能に合わせ、食材を食べやすい形態に調理する等、できるだけ自分で食べられるように支援されている。たまには、ファミリーレストランで外食されたり、お弁当を持って南楽園に出かけ、外で食事を楽しむこともある。

居室によっては床の間があったり、毛筆の書の額が掛かっている部屋もある。タンスや椅子やテレビ等、これまで使っていたものをご自宅から持ち込まれていたり、ご家族の写真やお気に入りの人形を飾っている方もあった。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみしょうの里

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

赤松直美

評価完了日

平成 21 年 7 月 15 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者の思いを知る為にはどうしたらいいのかを念頭に置き、理念に組み入れている。その理念に基づいて日々取り組んでいる。ミーティングや職員会議で話し合いながら確認をしているが、時に職員本位となり実践出来ていないと感じる場合もある。	
			(外部評価) 利用者の思いを知ることを大切に、「日々の暮らしの中で語り合い、その人らしい生活の支援」と理念に掲げ、職員全員で共有し、日々ケアに取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎週月曜日、地域交流センターやホームで地域の方々とカラオケ交流を行っている。また地区総会に出席したり、ソーマン流しや町主催の花火大会見物、地方祭、クリスマス会、避難訓練、運営推進会議等、地域の方々に協力していただいている。しかし行事の中では交流が行えても、日常的なものではないと感じている。	
			(外部評価) 年1回の地区総会では、事業所のパンフレットを配り、広く事業所を知ってもらったり、地区の役員会には、事業所の離れのスペースを提供されている。カラオケ交流会の参加者を、事業所主催のそうめん流しやクリスマス会に招待し、お付き合いが深まっている。毎月第3火曜日には、保育園児が来てくれるようになっており、利用者とおふれ合う機会が設けられている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、また地域の集会等で少しずつではあるが認知症について理解をしてもらっている。要望があれば実習生を受け入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実                      際、評価への取り組み状況等について報告                      や話し合いを行い、そこでの意見をサービ                      ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>二ヶ月毎の運営推進会議にて報告。話し合いを行い、                      気づきや意見等いただきサービスの向上に活かしてい                      る。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、地域の方から他事業所見学の希望等                      があり、地域の他の介護施設やグループホームを見学                      された。そこで知り合ったことをきっかけにして、事                      業所同士での行き来も始まっている。メンバーは、行                      事時等にも参加して下さり、外出時、車椅子を押し                      てくださったり、クリスマス会時には、家族ぐるみで                      協力してくださっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、                      事業所の実情やケアサービスの取組みを積                      極的に伝えながら、協力関係を築くように                      取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>二ヶ月毎の運営推進会議を行う中で、市町村担当者と                      顔見知りになっている。花火大会見物呼びかけたり                      はするが、日頃から連絡を密に取るなどといったよう                      な協力関係は築けていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>相談したいことがあると、運営推進会議に来て下さる                      市の担当者の方に問い合わせたり、会議時には、事業                      所の取り組みについてやケアプラン作成について、ア                      ドバイスをいただいている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準におけ                      る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく                      理解しており、玄関の施錠を含めて身体                      拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に一回、母体の特養での身体拘束高齢者虐待防止委員会や                      職員研修会に参加し研鑽している。職員会議でも毎月取り上                      げ、職員全員で話し合いを持ちながら、拘束をしないケアに                      取り組んでいる。利用者の方が不意に庭に出た場合でも、さ                      りげなく見守り後ろからついて行ったり、声をかけ散歩に                      誘ったりと安全面に配慮しながら、自由な暮らしに向けた支                      援を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>母体施設で行われる研修で、「身体拘束はあり得な                      い」ことを学んでおられる。自由な暮らしの支援に努                      めておられ、利用者が玄関の他からも外に出ることも                      あるが、地域の方や職員が見つめ、止めることなく見                      守っておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 母体の特養で身体拘束高齢者虐待防止委員会があり、毎月参加し話し合いを行っている。またホームでも職員会で毎月取り上げ、話し合い、虐待防止に向けて取り組んでいる。職員一人ひとりの気づき(言葉かけも含め)を活かした取り組みを行い、小さなことでも決して見過ごさないように努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 南予地区研修会や職員会、母体の特養での職員研修会に参加し理解を深める為の勉強会を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約に関する説明書を見ていただきながら、時間をとって丁寧に説明し、理解・納得を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方については日頃の何気無い言葉や態度から、その思いを察して答えようと努めている。ご家族には来訪時や電話等でどんなことでも言っていたけような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。	
			(外部評価) 現在、ご家族の来訪は多く、利用者の日頃の様子をお知らせし、意見をうかがうようにされているが、「よくしていただいている」といわれることも多い。重要事項説明書に公的な相談・苦情窓口を新たに示された。  ご家族の心情等も踏まえて、運営に関してご家族から具体的な意見をいただくような工夫や機会を、さらに作っていかれてはどうだろうか。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々のミーティングや月一回の職員会議等で、それぞれに意見を出し合い、話し合っている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 職員会議時等に母体施設長が出席されており、職員からの提案や意見を聞いておられる。設備の改修や備品購入等、又、テラスの屋根の取り付けや事業所入口の整備、ミキサーの購入等、利用者の生活を良くするためのいろいろな改善がなされてる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は個別に面談を行いながら状態を把握。また現場へ足を運び、業務の様子を観察している。職員が向上心を持って働けるよう助言や指導を行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体である特養が毎月実施している研修会には、毎回ほぼ全員が自主的に参加し研鑽している。また他の研修会へも積極的に参加し、資質の向上に努めている。研修報告書は特養も含め全職員が閲覧できるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 母体の特養発行の機関紙を送付したり、広報誌が送られてきたり、見学や研修等を受け入れたりさせていただいたりしながら、少しでも上を目指す取り組みを行っている。又、地域の勉強会等にも参加し、情報の共有化を図っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に自宅を訪問し、利用者本人とご家族から十分に話を伺う機会を設けている。利用者の様子やその思いを職員会にて報告し、職員全員で受け止める努力をしている。不安な様子であれば、日中の何時間かを2、3日通所で過ごしていただき、安心へと繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前にご家族から十分に話を伺っている。ご家族の思いに真摯に対応し、今後も気楽に何でも相談してもらえるような関係づくりに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>相談時、ご本人やご家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提供を行い必要なサービスに繋げるよう支援を行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>人生の先輩として教わる事が多く、そんな場面では必ず感謝の言葉を伝えている。今までの人生の中で培って来られた事に対して敬意を払いながら、楽しく穏やかに生活していただけるよう努めている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族と情報交換を行いながら、ご家族の思いを把握しご家族と共に職員も同じような思いで支援していることを伝えている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域に暮らす馴染みの知人が時折、訪ねて来て積もる話に花を咲かせたり、思い出の場所に案内したりと関係継続の支援を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者宛のお手紙に職員が返事を代筆されたり、年に1回は懐かしい場所を訪ねることも支援されている。利用者が長年働いておられた「かまぼこ店」を訪ね、記念写真を撮って帰られた利用者もおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や特徴を把握し、利用者の方々全員で楽しく過ごせるような場面作りを行っている。毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を待つようにし、利用者同士の関係がうまくいくように配慮している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 体調低下に伴い、病院や施設に移られた方もいるが、ご家族が近くまで来たからと立ち寄って下さったり、近況報告を伺ったり、長期入院により退去された場合、病室に伺うなど、関係を大切にしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉だけでなく、表情や態度からご本人の思いを知ろうと、常に配慮している。今、何がしたいのか、その行動は何に向けてのものか等。時に見過ごしてしまう場合もあり、場面場面での思いをしっかり把握できるよう努めていく。 (外部評価) 利用者の行動の意味を考えながらかかわることで、観察力が身につけてきた、と管理者は話しておられた。気づいたことを記録に残し、ご家族にも伝えたり、職員間でも共有されている。夕方になると「家に帰らなければ」と言われる利用者にも理由がそれぞれあり、家よりもご家族への思いが強く感じられることに気付かれていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用までに自宅を訪問し、ご本人やご家族等から聴き取るようにしている。たとえ小さな事でも職員間で共有し支援の中に活かすようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、得意なこと出来る事をしていただきながら喜びを持ってその人らしく、楽しく、安心した生活が送れるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 折に触れ、ご本人やご家族からの思いをお聴きし、介護計画に活かしている。3ヶ月毎に話し合いを持ちながら介護計画を作成すると共に前回立てた介護計画のモニタリングを行っている。介護計画からモニタリング、そして介護計画と、それらが一連の流れとなるように研鑽していく。</p> <p>(外部評価) 利用者の言葉をそのまま記載して、ご本人の思いを主体に介護計画が立てられるよう工夫されている。ご家族の来訪時に合わせてカンファレンスを行い、意見等を聞いておられる。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しをされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別のファイルに状態変化や外出支援等を記録。日々の様子は、1～3行程ではあるが記録している。介護計画に添っての評価も記録し見直しに活かしている。職員全員が関わりを持って取り組めるようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族の状況や要望に応じて、受診や思い出の場所、自宅等への支援を行っている。懐かしい思い出の場所も度々訪れるが、毎回、「数十年ぶりです。」と感激される。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地区や民生委員の方に参加いただきながら、運営推進会議を行い、話を聴いていただく機会を設け、地域の方と共に得意なことで繋がりが持てるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となってい る。受診等、ご本人やご家族の希望に応じて対応して いる。利用者の状態により訪問診療に来てもらう場合 もある。いつも早急に対応して下さる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者のご家族が希望するかかりつけ医にかかれるよ うに支援されており、ご家族が付き添われたり、都合 によっては職員が同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状 態変化に応じた支援を行えるようにしている。母体の 特養の看護師も週に一度来訪し利用者の状態把握に努 めるなど、体制を整えている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関 に提供し、頻りに職員が見舞い、安心とストレスの軽 減に向けて支援している。ご家族とも情報交換しなが ら回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重度化に伴う意思確認書を作成し、説明を行い、同意 をもらっている。今の所、終末期をホームでむかえた 利用者はいないが、本人の気持ちをご家族を交えてお 聴きし、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと 等の話し合いを行っている。かかりつけ医との連携も 図れている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りについて事業所のできることを、できないこと等 を説明し、指針に基づき、利用者のご家族の意思確認 を取っておられる。これまで看取りの事例はなく、事 業所で最期を迎えることを希望されている方もないよ うだが、今後、希望に応じて支援できるよう、看護師 資格を有する職員と協力して取り組む体制を作ってお られる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に一回、消防署の協力を得て行われる母体の特養での救急救命法の学習会に参加したり、職員学習会や職員会議で定期的に勉強会を行いながら研鑽している。突発的に発生する事故に対して、その場に居合わせた時、あわてず落ち着いて対応できるよう、更なる努力が必要。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中と夜間の火災を想定しての避難訓練を年二回実施している。地域の方の協力もあり意見等いただいている。また地域との合同では今までに二回、地震による津波を想定して近くの小学校まで避難する訓練を行っている。駆け付けた地域の方が車椅子を押して下さったり、手を引いたりと協力いただいている。(自動通報装置とスプリンクラー設置済) (外部評価) 昨年、自動通報装置、今年は、スプリンクラーを設置された。昼間と夜間想定避難訓練を近所の方達と行い、車椅子を利用されている利用者の避難等、協力を得て実施された。2ヶ所ある出口から避難することは、想像以上に時間がかかることが分かり、参加者から避難時の助言等をいただいた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員研修会や職員会議の中で職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。身体拘束虐待防止委員会では言葉かけも重要視し、日常の場面場面で尊厳を持って接する事が出来るよう話し合いを重ねている。 (外部評価) 職員の言葉かけで利用者を傷つける可能性があることを理解し、「頑張って」「トイレ今行ったとこよ」等、言わないようにすることを努力目標とされている。法人が発行している月刊「自在」に、みしょうの里の情報も掲載されているが、写真等を載せる際には利用者ご家族の許可を得るようにされている。	利用者との関係のもとではあるだろうが、管理者や職員の利用者への言葉かけへの配慮が必要と感じる場面が見受けられた。この機会を事業所のさらなるケアの質向上の機会と捉え、点検したり話し合ってみてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示が困難な方についても、職員は希望や好みを把握している。些細なことでも声をかけて、利用者が自己決定できるように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 周辺の散歩や外出等、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。田んぼが気になって仕方のない方には、ちょっとドライブして稲が育っている田を見て安心してもらったり、テレビでの時代劇で喜んでもらったり、自室で休んだり希望に添った支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の好みに合わせて、ご家族が衣服を持参されている。その中には、以前、ご自分で購入された品のいいスカーフやブラウス等もあり、ご本人の好みに合わせて支援させていただいている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るような雰囲気づくりに努めている。ごぼうのさがきやインゲンのすじとり等、一人ひとりの出来る力を活かしていただいている。 (外部評価) 利用者の重度化に伴い、食事の準備等を一緒に行うことがむづかしくなっている状態であるが、テーブル拭き等、できることを行えるよう支援されている。利用者の機能に合わせ、食材を食べやすい形態に調理する等、できるだけご自分で食べられるように支援されている。たまには、ファミリーレストランで外食されたり、お弁当を持って南楽園に出かけ、外で食事を楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体である特養の管理栄養士が献立表を作成。その献立を基に食事作りを行っている。利用者の状態に応じて柔らかくしたり、刻んだり摂取しやすい工夫をしている。摂取量や水分量は常に確認し、栄養の偏りや水分不足に気を付けている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔清拭の声かけを行い、利用者の状態に応じて、見守ったり、用具を準備したり、介助を行っている。歯磨き後、口腔内を確認し、磨き残しがあれば再度ブラッシング等支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、尿意の訴えない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もいる。 (外部評価) 職員が利用者の手を引いて、誘導されている様子がうかがえた。排泄用品の使用や組み合わせ等を工夫して、費用面にも配慮されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。体操や散歩等、身体を動かすことを日課とし、自然排便できるよう取り組んでいるが、中には便秘薬を使用している利用者もいる。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にはバイタル測定し、日中の様子を観察した上で、ご本人に希望を確認し入浴していただいている。ほぼ全員の方が毎日入浴されている。ゆっくり入浴を楽しんでいただけるよう温度や湯船に浸かる時間等、利用者の一人ひとりの好みに合わせている。 (外部評価) 利用者の希望と体調に合わせて、入浴を支援されている。だいたい午後3時頃から入浴されている。入浴をためらう利用者にも「では拭くだけでも」とお誘いして、入浴に至るケースもあり、その後は「気持ちよかった」と言われることが多い。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を考慮し、日中の活動を促したり自室で休息したり、夜間は希望により好きな時代劇や歌謡曲等、テレビを見てすごしていただいたりしている。ご本人の希望に添って、安心してゆったりやすめるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の処方箋等、利用者毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡したり口元まで介助するなど、状態に応じて支援している。看護職員と医療機関との連携も図れている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作りや洗濯物たたみ、畑仕事等、経験や出来る力を活かせるような場面作りを支援している。野菜作りなど職員が教わることも多く、その事が楽しみでもあり、気分転換にもなっている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に添って、散歩やドライブ、庭で過ごす等の支援を行っている。買い物に付き添っていただいたり、時には昼食をレストランで楽しむこともある。四月の桜の花見から始まり、バラの花や菖蒲の花・コスモス見物・故郷訪問に出かけている。時にはお弁当を持参し、ゆっくり過ごしていただいている。	
			(外部評価) 事業所の近くの土手を散歩したり、アヒルや鯉に餌をやることも楽しみとなっている。季節ごとの花見、利用者それぞれ年に1回は懐かしい場所に出かけることも支援されている。玄関の横のテラスに屋根が付き、雨の日でもちょっと外に出て、土手を通る人や庭の花を眺めることができるようになった。裏の畑の草が生えている、と気になって草引きに出られる方もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心する利用者には、ご家族の協力を得て小額所持してもらっていたが、現在では認知症状が進み、お金に対する興味を持たなくなった。買い物した場合には、財布を渡しご本人より直接支払っていただくこともある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望により、職員がダイヤルして直接話していただき喜んでいただいている。また友人の方からの手紙に対しては、ご家族に報告し職員の方からお返事をさせていただいたこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>古い民家を活用している為、馴染みがあり安心して暮らしていただいている。季節ごとに居間の飾り付けを行い、古くて狭いながらも居心地よく過ごせるように清潔面や室温等にも配慮を行っている。環境面でも庭を挟んで川が流れており、静かで落ち着いた雰囲気でも過ごしていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民家を改修した事業所で、色調も利用者の年代に馴染み深いようである。居間にはゆったり座れるソファが並んでおり、玄関の前には花壇、裏には畑がある。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間を共用の場とし、利用者同士の交流に役立てている。また自室を利用し気ままに過ごしていただけるよう配慮している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご自分が長年使い愛着のある椅子やタンス等を自室に置いたり、写真や観葉植物等ご家族が持って来られたものを飾ったりして、居心地よく暮らせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室によっては床の間があったり、毛筆の書の額が掛かっている部屋もある。タンスや椅子やテレビ等、これまで使っていたものをご自宅から持ち込まれていたり、ご家族の写真やお気に入りの人形を飾っている方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>古い民家を改修した造りの為、利用者にとっては馴染みがあり落ち着ける空間となっている。段差のある箇所もあるが、つまりく事もなく、自由に行き来されている。</p>	